

正当化

ライブラリ

心理担「わたしは心理カウンセラーを生業にしている民間人です。兵士のメンタル管理のために同行を依頼されました。人の心理には明るいのですが、戦闘については暗いので、みなさんの足手まといにならないように努めます。

相手の腕を斬れば自分の腕が斬られます。相手の足を斬れば、今度は自分の足が斬られます。

家族を守るためでも他人を斬るなら、相手の家族からすれば理不尽でしかなく、なぜ自分達を守ろうとした身内が斬られなければならないのかと、やるせない思いになります。あなたは自分の家族を守るために、相手家族に犠牲を強いたのです。立場を入れ替えればわかります。

そしてあなたが相手家族から報復を受けて、あなたの身内がその報復をすれば、報復の連鎖です」

上官 「ゴホンッ（咳）。失礼」

心理担「…斬れば斬られますので、斬られたくなければ斬らないことですが、戦^{いくさ}です。何もしなくても斬られます。剣を扱う以上、いつか斬られますので、斬られても相手を恨まない精神が理想です。

では斬られずに済むにはどうすればいいかですが、剣を世の中から無くします。剣がなければ剣で斬られませんし、防具も必要なくなります。

他国を侵略しに行くわけではありませんが、剣を振り回して侵略に使おうとする輩が世界に少数いるから、我々も剣を持つしかなく、世界で同じことを強いられるバカげたことが起きています」

兵士 「でも『敵国は狂人だから剣をぶん回して来る』と聞いてます。相手が狂人なら仕方ありません。防衛のために剣が必要です」

心理担「相手国の国民も、『相手国（我々）は狂人だから剣をぶん回して来る』と聞かされています」

兵士 「でも敵国は、不当な経済封鎖をした事実があります」

心理担「相手国国民は経済封鎖の正当性を相手国上層部から説明を受けています」

兵士 「えーっ、しかし敵国に正当性があるわけないです。そう聞いてます」

心理担「相手国も同じ認識をしています」
-1-

兵士 「じゃあ一体…」

心理担「事業を継続するには『仕入れ』が必要なように、戦も『補給』がなければ続けられませんので、補給路を封鎖すれば、消耗品も食料も尽きて戦は終結します。そもそも戦道具いくさどうぐがなければ戦はできませんので、戦が継続中ならエネルギー供給を止めて、戦道具や消耗品の製造ができないようにすれば、形はどうあれ戦は止まるのに、他国同士の戦を外側から議論しておきながら、貿易を止めてみようかという話が出回らないのはなぜか？です。

戦があると国民は我慢しますし、国上層部も国民に我慢を強いる正当な理由ができます。また、**国内の不都合な事実**よりも、**非人道的である戦**に国民は注目しますので、国上層部にとって戦は都合がよいです」

上官 「ゴホッ、ゴホッ」

心理担「侵略や略奪は暴力でしかなく、目の前の暴力を止められるのは『力』です。『言葉』ではありません。力なき正義は『正義』とは呼べず、正義と呼ばれるには力がなければなりません。しかし間違った力の使い方は『暴力』であり、正義はありません。

侵略中の相手国兵士を止められるのは力ですが、戦が始まれば、裏では話合いが持たれて落としどころが協議されています。戦や防衛は『戦道具』の他に『話合い』も必要です。

暴力に言葉が無効でも、戦が終われば、言葉で国は治められます。

わたしの話を聞いて疑念が浮かび、戦闘意欲が下がったのでしたら、相手国国民にも同じ話をすれば、争わずに済む可能性があります。

戦をすると、戦道具が生産されて人やお金が動きますので、戦需要いくさじゅようによって景気が上昇し…」

空気を貫く音がした瞬間、檀上の心理カウンセラーの胸に一本の矢が突き刺さった。ざわめきと怒号が飛び交う中で兵士達が駆け寄る。

心理担「…。前世、前々世と、わたしは過去世で支配階級と戦ってきたことを今思い出した…。みんなも権力を相手にするときは気を付けた方がいい。誰もが自分を正当化できる理由を持っている。わたしも、支配階級達も……」

おしまい

最終更新日 2026-10-30

[ライブラリ](#) [まこと](#)